

江上茂逸の兩氏は委員を代表して笠原氏に會見し

- 一、日給參圓以下の男職工に參拾錢
- 二、日給貳圓以下の男職工に五拾錢
- 三、日給壹圓五拾錢以下男職工に貳拾錢
- 四、一般女工に參拾錢

右の割合を以て全職工の日給を此の際増額されたしとの嘆願書を提出したり。之に對しては笠原氏は「嘆願の主旨は諒とするは即答は出来ない、一考の上十三日午後四時半までに回答するからそれまで決して他の職工から煽動されても輕舉する事なく靜肅に仕事を續けて呉れ」と述べて會見を終れり。此れより先怠業中の同部職工中、委員の會見中場内に示威運動を開始し、約千二百の全職工及び數十名の女工は四列縱隊となり、労働歌を高唱し工場内を練り廻り氣勢を添へたり。

然るに午後四時に至るや笠原工場長は職工側の交渉委員一同を招致し十三日回答の約束を撤回し、改めて要求全部を拒絶し委員は工場に引返し一同に報告するや、激昂其の極に達し「會社は吾々をペテンにかけたのだ」と口々にその不誠意を罵詈り、大旗小旗無數を押し立て労働歌を高唱して約小半時工場内を練り、四時半頃塲門を出で、「造船へ造船へ！」と叫びながら同工場に殺到せんとする折柄、恰も造船工作部職工が引揚ぐると會し「意氣地なし」などと、散々皮肉られたため電機部職工は益々

々猛り立ち、造船部表門を斜めに並列する警官隊を尻目にかけてながら、向ふ側の廣地——笠原工場長宅の裏門に殺到し、見る／＼同邸を包圍し鯨波の聲を揚げて動搖めき「焼き打ちせよ！」「叩き潰せ！」など怒號しつゝ、門戸を押し破り亂入したるため警官隊は力を限りに制止したるも衆寡敵せず、急を三菱本社に屯せる警官隊に報じ、百數十名の巡查は直ち隊伍を整へて來援、茲に警官隊と職工側との一大衝突を演じ、首謀者と目せらるゝ四名を検束したるが狂へる群衆は屈せず彼方此方に警官隊と小衝突を演じ形勢凄慘たるものあり、正午頃東京より來神同工場に駐屯し居たる甘粕憲兵中尉の率うる十一名の憲兵隊も現場に急行、警官隊に力を添へ僅に群衆を撃退したり。

門扉の破壊によつて、三菱造船所の内外は宛も戒嚴令を布けるが如く、各所の通用門は數名の守警と一隊の警官とを以て嚴かに固め、如何なる通行人をも一々誰何し、守衛附添ひの上ならでは蟻一匹をも通行を許さず、造船所機部の階上を其の本部に充て、白木兵庫署長自ら總指揮官となり、同署員及び各所から應援の爲め派遣せる百數十名の警官を指揮して萬一に備へ憲兵隊は各守衛部を縫つて馳驅する等、當日の三菱工場は實に戒嚴令を布けるが如くなりき。

十四、三菱各工場遂に閉鎖